

主題	サービス向上及び介護負担の軽減
副題	介護補助物品使用による腰痛予防
リハビリ	介護補助物品

研究期間	11 ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム あゆみえん
発表者：鈴木 仁之（すずき きみゆき）			アドバイザー：
共同研究者：中川秀一、角田良歩子、河野哲夫、高橋大介			

電 話	0428-74-5550	メール	ayumien@tokushinkai.jp
F A X	0428-74-5051	URL	Http://tokushinkai.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	あゆみえんは青梅市の東部成木地区に位置し、周囲を山間、清流に囲まれた自然豊かな施設です。平成3年4月に開設し、施設利用者 160 名、ショートステイ利用者 10 名、訪問介護、訪問看護、居宅介護支援事業などの在宅サービスを行っています。ISO9001（品質管理）、14001（環境管理）を認証取得し、業務、サービスの標準化を図り、利用者に信頼される施設を目指しています。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

研究前の状況

利用者の介護度が重度化することで、年々職員の介護負担が増え、腰痛を抱える職員が増加していたが、介護補助物品の使用に対し、持ち運びの手間や、取付け、セッティング時間のロスを考え施設としては、腰痛等職員負担が増加しているにもかかわらず介護補助物品の使用に対し懸念を持っていた。

課題

介護者が抱える問題として腰痛や蓄積疲労、心労に対し課題があるが、その中でも介護負担の軽減が急務となっている。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

各介助場面で使用する介護補助物品の選定を行い、介護補助物品を使用することでの腰痛や蓄積疲労、心労に対し少しでも改善できるのではないかと、また、介護補助物品を使用することで利用者介助に対し、安定した介助を行え、安心したサービス提供につながるのではと考え介護補助物品の活用に取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

対象者：
利用者及び職員

取り組みの具体的な手法：

①職員アンケート②物品査定③委員会での精査
④予算組立⑤使用後の職員アンケート

取り組み時間や期間：

取り組み時期としては次年度予算を立てる昨年
10月から、発表までの11カ月間

取り組みの手順：

どの介助場面で身体に負担がかかっているのか
アンケートを行い、負担のかかる場面に必要な物
品の選定を行った。介助場面、物品によって必要
なものには使用方法の整備を行いOJTを通じ各
職員への周知を図り、実際に利用者へ使用してい
ただいた。使用後には利用者、職員から聞き取り
を行い物品の使用時の評価を行った結果、再度違
う物品を購入するものもみられた。

取り組んだ職員数や構成：

介護職員72名（内非常勤職員17名）

部署間の連携：

介護支援専門員、生活相談員、看護師、生活訓練
指導員、介護士、栄養士構成のサービス担当者会
議にてサービスの見直し、提供物品の選定を行い
情報周知及びサービス提供を実施。

必要とした道具や費用：

移乗介助補助具（定価¥50,000-）、スライディ
ングボード（定価¥98,000-、¥27,090-）、モ
ジュール型（多機能）車椅子（定価¥92,000-）、
入浴介助補助ベルト（定価¥7,350-）、立上り補
助マット（定価¥8,085-）

活動の成果を出すポイントになった点：

職員への腰痛アンケート、利用者から使用した際
の率直な意見の聞き取り結果に対し、評価を行い
再度物品の見直しを行い買い替えした。介護補助
物品に消極的だったことに対しても介護負担軽減、
利用者サービスの向上につながることを意識
付け、OJTを通じて技術の向上を図った。

《4. 取り組みの結果と考察》

利用者へ聞き取りの際、移乗補助具の使用により
「安心して移乗ができるようになった。」「入浴の
際にも安心して体を任せられる」などの声を頂け
た。

使用前には腰痛に対し使用後の職員アンケート
から72人中63人（88%）の職員から使用する前
より体の負担が減った、入浴の際は利用者の体
を持ち上げるときも支えやすくなり落としてしま
うなどの不安も減ったと率直な意見が出た。

《5. まとめ、結論》

新しい事に取り組むことは大変かもしれないが
結果利用者サービス向上につながり、職員の介護
負担の軽減も図れた。また、新しい取り組みに対
して現場主体の意見が多く出るようになり、今後
も利用者サービス向上に向け新しい取り組みに
対して積極的に取り組んでいきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

今回のアンケートにて知り得た情報は、施設内サ
ービス提供上に必要以外は、正当な理由なく第三
者に漏らさないこと、不利益を被ることがないこ
とを説明し、回答をもって同意を得たこととし
た。

《8. 提案と発信》

新しい取り組みに対しコストや手間、リスクを先
に考えてしまい、消極的になりがちな取り組みに
対し積極的に取り組むことで利用者サービスに
つながり、また、働く側の職員に対してもプラス
の結果が出ると思います。

【メモ欄】